

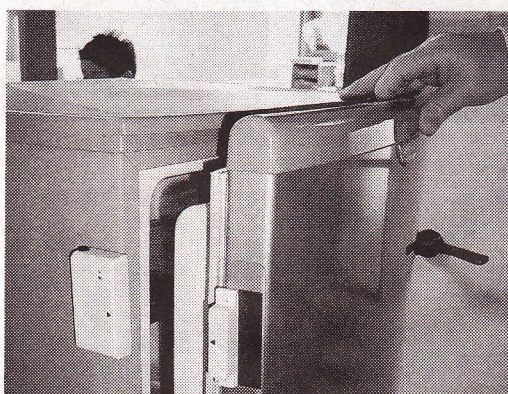
知りたい

高齢者の安否を見せる

独り暮らしの高齢者が増える中、情報機器を活用して、高齢者の安否を見守る民間サービスが広がっている。家電製品の利用状況や室内のセンサーで高齢者の異変を察知したり、異常時にボタン一つで看護師らにつながったりと、内容はさまざまだ。

広がり見せる

民間サービス



アートデータの冷蔵庫用のセンサー。開閉が長時間行われないと異常と判断し、離れて暮らす家族などにメールで通報する

「ず」と自信をのぞかせ、地域の枠にとらわれず、個人契約で受けられるサービスもある。

緊急通報システム会社大手、安全センター(東京)の「お家でナースホン」は、体調急変時に通報ボタンを押すと、看護師のいるコールセンターに電話がつながるサービス。月に一度、オペレーターが高齢者宅に電話し、健康状態を確認する。

孤独死防止に取り組むNPO法人「人と人をつなぐ会」(東京)は昨年、東京都新宿区の戸山団地で、団地や近隣の高齢者向けに「見守りケータイサービス」を導入した。住民の約半数は六十五歳以上だ。

民間の緊急通報システムと、ソフトバンクの高齢者向け携帯電話「かんたん携帯」を組み合わせた仕組み。折り畳み式の携帯電話を開くと、一日一回、子どもらにメールを自動送信。短縮ダイヤルボタンの一つを押すと、緊急通報システムのコールセンターにつな

がる。センターでは、看護師らが救急車の手配、公的機関への連絡などに対応。話し相手にもなる。

うにした。その診療所が高齢者のかかりつけ医になり、緊急時にも駆けつけるという態勢だ。

「安否確認サービス」は、ベッド下や冷蔵庫ドアに付けたセンサーが離床やドアの開閉を感じ、電話回線

異常時に通報ボタン

看護師が対応

半数以上が経済的な理由で携帯電話を購入できないことが判明。貸し出し方式に変更した。地元の診療所とも連携。定期的な訪問診療を受ければ、診療所がレンタル料を負担し、高齢者の負担が通話料だけになるよ

区、練馬区の全域に広げ、一万人を目標に利用者を募集中。つなぐ会の本庄有由会長(キ)は「現時点の利用者は四十人。目立った効果はまだ出ていないが、近く貸与による利用が本格化すると、大きな力になるは

生活パターンが変化

家族にメール

を經由してサーバーに情報を蓄積。「正午まで起きない」など普段と違う生活パターンが現れた場合に、家族らにメールを送信する。こうしたシステムを個人で契約すると、利用料や機器のレンタル代などで月数

見守りサービスの一例

サービス	内容	料金	問い合わせ先
安全センター「お家でナースホン」	ボタンを押せば、看護師につながる	工事費1万6590円、月額基本料4725円	(0120) 377317
象印マホービン「みまもりほっとライン」	ボットの利用状況を1日2回、家族にメールで知らせる	契約料5250円、月額利用料3150円	(0120) 950555
アイ・コンサルタンツ合同会社「げんきでんわ」	1日1回、自動で電話がかかり、健康状態の質問にボタンで答える。内容が登録者にメールで届く	登録料2000円、月額利用料980円	092 (600) 8671
アートデータ「安否確認サービス」	センサーで異常を覚知し、登録者にメールで知らせる	入会金8400円、月会費1050円と機器レンタル代	03 (5790) 5300

※「おひとりさまの終活」をもとに作成

関心があれば、自治体に問い合わせることも。

二〇一一年版の「高齢社会白書」によると、一〇年の独り暮らしの高齢者は四百六十五万人。三〇年には七百万人以上になる見通いだ。孤独死のリスクが高い高齢者の独り暮らしの増加が、見守りサービスの拡大につながっている。民間研究機関・矢野経済研究所によると、高齢者向けの見守りサービスは、〇〇年前後に普及し始め、市場は拡大傾向。一〇年の市場規模は、利用者の金額ベースで百十八億円と推測する。

独り暮らしの高齢者の生活に便利な情報をまとめた「おひとりさまの終活」の著者、中沢まゆみさん(六三)は「緊急時にスタッフが駆けつけると、一万円近くの追加料金が発生することもある」として、まずはサービス内容をよく知ることが第一歩と助言する。「困ったときに助け合える人のつながりを普段からつくっておくことも大切。元気なうちから、自分仕様の見守りネットをつくる心掛けを」と呼び掛ける。